

## SBT認定化学企業のGHG削減目標と進捗

### ◆DuPontがSBT認定を受け、GHG削減に意欲的な化学企業の仲間入り果たす

DuPontは2023年4月、Scope1+2及びScope3のGHG削減目標を定め、SBTの1.5°C目標認定<sup>注</sup>を取得した。翌5月に発表されたサステナビリティ報告書でGHG削減対策や低炭素製品開発の方針などが示された。再エネ利用率の実績は57%にまで高まっており、また、GHG削減が困難なボイラーでは主な燃料を天然ガスとし、グループ内での石炭排除を行う、などScope1+2は30年に19年比で50%削減目標とした。Scope3は全GHG排出の約85%と分析、主に購入製品、販売製品の廃棄において対策を進めるとし、30年に20年比で25%削減目標とした。

注：科学的根拠にもとづき世界平均気温を産業革命の前と比べ1.5°C未満に抑えるパリ協定水準と整合した2030年目標

### ◆主要先進化学企業のGHG削減、Scope1+2は順調だがScope3では差有り

SBT1.5°C認定の売上1兆円以上の企業7社（新興企業除く）について目標と進捗度を整理した。Scope1+2は概ね順調に削減が進み、削減率20%以上の企業が4社

表 SBTi認定の主要化学のGHG削減目標と進捗

【Scope1+2 削減】	30年削減目標(削減率)	最新年進捗度(増減率)	進捗度評価	
AkzoNobel(蘭)	-42%	2020→2022	-8%	○
Royal DSM(蘭)	-59%	2016→2022	-35%	◎
Lanxess AG(独)	-41.6%	2021→2022	-23%	◎
Arkema(仏)	-48.5%	2019→2022	-34%	◎
積水化学工業(日本)	-50%	2019→2021	-16%	○
PPG Industries(米)	-50%	2019→2022	-9%	○
DuPont de Nemours(米)	-50%	2019→2022	-42%	◎

※1:7社の30年削減目標率の平均値は-49%

※2:進捗度評価: ◎は20%以上削減、○は20%未満削減とした

【Scope3削減】	30年削減目標(削減率)	最新年進捗度(増減率)	進捗度評価	
AkzoNobel(蘭)	-42%	2020→2022	5%	△
Royal DSM(蘭)	-28%	2016→2022	-17%	◎※3
Lanxess AG(独)	-40%	2015→2022	-59%	◎※4
Arkema(仏)	-54%	2019→2022	-49%	◎
積水化学工業(日本)	-30%	2019→2021	5%	△
PPG Industries(米)	-30%	2019→2022	未公表※5	-
DuPont de Nemours(米)	-25%	2020→2022	-2%	○

※1:7社の30年削減目標率の平均値は-36%

※2:進捗度評価: ◎10%以上削減、○10%未満削減、△増加とした

※3:Royal DSMは強度比(原単位)で報告、表記

※4:Lanxess AGの進捗度は親会社ベース

※5:PPG Industriesは2024年時のESG報告でScope3数量を発表予定

(出所:SBTのHP及び各社サステナビリティ報告などARCまとめ)

あった。そのうち3社はScope3で10%以上削減している。DSMは22年次報告でナイアシン、カプロラクタムの原料などで削減と報告し、Lanxessは22年次報告でバイオ原料またはリサイクル・プラスチックの生産を報告、Arkemaは23年5月にScope3目標を54%削減と高め、バイオ由来ポリアミドや新フッ素ガスへ転換すると報告している。3社はScope3削減目標を随時、高めている。

23年3月、企業が環境貢献製品を謳

う前にサプライチェーンGHG削減状況を開示することがwbcSDから推奨され、SBT1.5°C認定の化学企業が22年に10社、23年は6月まで12社と増えている。しかし、Scope3削減で進捗がある総合化学企業はまだ少ない。 【新井喜博】